

徳島赤十字病院初期臨床研修プログラム：病理診断科部・検査部

コース責任者：笠井 孝彦

研修期間：選択科として2週間から

I 一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

病理診断の重要性を理解し、病理診断を行ううえでの必要な知識、技術、態度を身に付ける。

II 行動目標 (SBOs: Specific Behavioral objectives)

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

- 1) 病理診断科での基本的業務の流れを理解し、病理検査結果を解釈できる。
- 2) 検査部での検体処理の流れを理解し、検査結果を解釈し、ときには適切な指示をしながら、検査技師と協力して検査を進めることができる。
- 3) 細胞診検体採取と提出が正確に行うことができる。

III: 学習方法 (LS: Learning Strategy)

1) LS (方略) 1: On-the-job training

■ 主な基本的手技

- ・病理診断科の基本的業務（受け付け、切り出し、包埋、薄切、染色、特染、免染、迅速診断）を技師・指導医または上級医のもとで見学、可能な限り自ら行う。
- ・消化管グループ分類を行う。消化器手術標本の診断を最低1例行う。
- ・細胞診スタンプ標本を作製、ギムザ染色 (Diff-Quik®) を行う。
- ・細胞診 ABC を見学し、検体処理について理解する。
- ・グラム染色、血型判定、クロスマッチを自ら実施し、末梢血目視、尿沈渣、不規則抗体スクリーニングの異常所見を解釈できる。
- ・検査技師、臨床医師との良好な関係を築き、お互いの協力が正しい診断に不可欠なことを理解する。
- ・不幸にして亡くなられた方の臨終、病理解剖同意、病理解剖、結果説明を経験し、臨床経過をCPCで発表、症例をレポートする。
- ・できれば将来の専門分野について病理的知見を深める。

■補足

- ・ 必須項目：CPC 発表、CPC レポート作成
- ・ 別紙予定表参照。スケジュールに従って実施する。下記を用いる。
 - ①特殊染色、免疫染色プリント
 - ②研修医用細胞診学習スライド

2) LS (方略) 2：カンファレンス・勉強会

- ・ CPC 症例提示とレポートができる。

3) LS (方略) 3：学会・研究会・学術活動

- ・ 学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加する。

IV学習評価 (Ev: Evaluation)

EPOC による総合評価

総合的には、CPC アンケート結果による研修医ポイント、検査技師による研修医評価により行う。その他は下記を行う。

知識：終了時テスト

CPC レポート

- 技能：①切り出し、包埋、薄切、染色、特染、免染結果を指導医または上級医が評価する
- ②スタンプ標本作製、ギムザ染色 (Diff-Quik®) 結果を指導医または上級医が評価する
- ③消化管グループ分類、手術標本診断を指導医または上級医が評価する

【別紙】

病理診断科実習目標：病理診断科での基本的業務の流れを理解。穿刺吸引細胞診の検体採取と検体処理ができる。

検査部実習目標：グラム染色、末梢血分類と異常所見判定、尿沈渣、血液型判定とクロスマッチ、不規則抗体結果をみて適切に行動する。

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30	外科ミーティング			外科・検査部ミーティング			
8:30-10:00	生検切り出し見学 切り出し室 免疫染色プリント	包埋見学 染色室 特殊染色プリント	特殊染色ブ解答 切り出し見学	切り出し見学	剖検症例診断 9:45~病理部 ミーティング		
10:00-12:00	切り出し見学 術中迅速診断	切り出し見学 細胞診自己学習,	切り出し見学 術中迅速 特殊染色、免疫染色	切り出し見学 術中迅速(随時) 特殊 染色、免疫染色	切り出し見学		
12:00-14:00	休憩と消化管生検標本の下見 (Group 分類+所見を付箋に書いて貼る。14:00 過ぎから指導医と鏡見)						
14:00-15:00	消化管生検診断 免疫染色解答	14:00 血液像(病理 診断科)	13:00~消化管生検 診断	消化管生検診断 血液ガス 心電図クイズ	13:00~消化管 生検診断 14:00~輸血検査		
15:10-17:10	剖検切り出し見 学、実践	標本薄切 10 枚	16:00 細菌検査	15:00 採血ガイドライ ン一般検査尿沈渣			
	剖検	剖検	剖検	剖検：CPC・反省会	剖検	剖検	剖検

赤は病理技師 指導
カラーは検査部 技師 指導